

学習の機会と質を保証するための eラーニング活用

～ Moodle 上の教育実習動画から改善点を探り、自身の教育実践へ活かす～

eラーニングを活用した「補講」と「補充学習」

教育学部では、平成 25 年度後学期開講の「教職実践演習」の適切な実施と厳格な評価のため、2つの点から eラーニングの活用を考えています。

一つは、欠席した学生への「補講」です。欠席した学生に対しても、学習機会の保証をしなければなりません。数百名という受講生への個別対応は容易ではありません。そこで、授業全体をビデオ撮影し、その動画に資料と評価用の課題を組み合わせ Moodle 上にアップすることで、学習機会を与えることができます。



授業風景

もう一つは「補充学習」です。こちらについては、Moodle 上でコンテンツを制作しました。「教職実践演習」の授業で利用するのではなく、教職課程の DP（ディプロマポリシー）を満たす知識・技能等を身につけられていないと評価された学生向けのものです。各回の授業後、該当の学生は Moodle 上の動画コンテンツを視聴し、Moodle のフォーラム（ディスカッション機能）を活用して教員とディスカッションを行います。

学生と教員の双方向の意見交換により、知識や技能を習得

「補充学習」のために制作した

コンテンツに、「机間指導・机間巡視のあり方について」というものがあります。Moodle 上にアップされたいくつかのタイプの「机間指導」「机間巡視」の動画を学生に視聴してもらい、それぞれの問題点や改善点を指摘することで「机間指導」「机間巡視」がどうあるべきかを考えてもらいます。そして、その学びを Moodle のフォーラム（ディスカッション機能）にコメントしてもらいます。実務経験がある教員との双方向の意見交換のなかで、学生の不足している知識や技能、ならびに教職に関する捉え方などに影響を与えようと考えています。

多様かつ想像的な解釈を持った、実践力のある教員を養成

Moodle に動画をアップすることは、これからどんなことについて議論するかを学生と共有しやすいというメリットもあります。動画ではたくさんの情報量を短時間で与

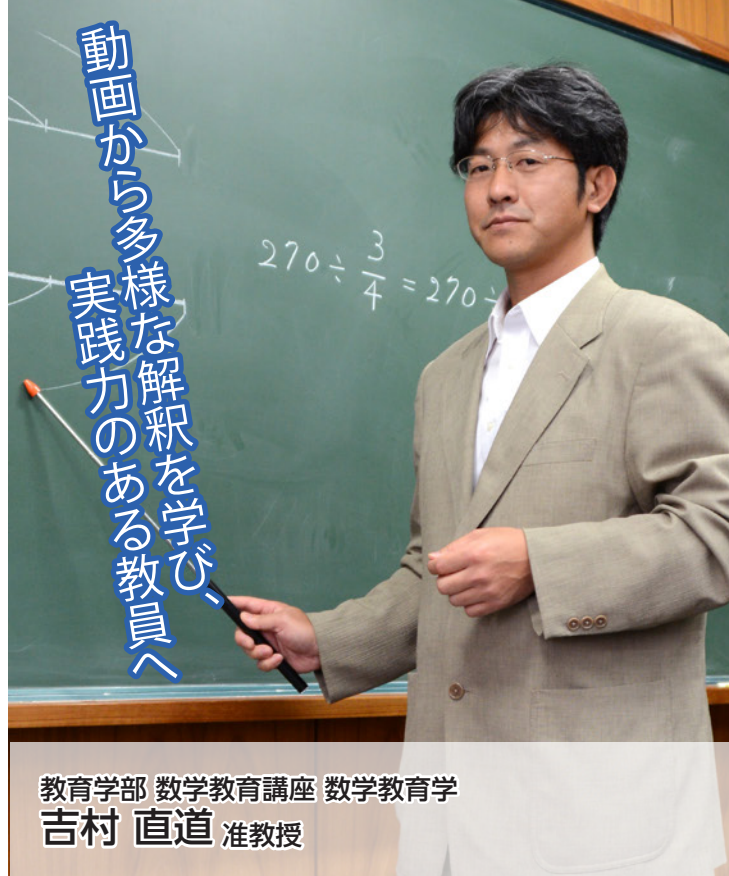


動画を視聴する学生

え受け取ることができます。それゆえ視点が増し、多様かつ想像的な解釈を持つことができます。これらは教職の指導において非常にメリットが大きく、実践力のある教員を育成できると考えています。

教育デザイン室の協力

初めは、コンテンツの制作に対して「何から始めれば良いか」



教育学部 数学教育講座 数学教育学 吉村 直道 准教授

「どのような手順で行えば良いか」という不安がありました。しかし実際には、「こんなコンテンツを作りたい」という要望をデザイン室に伝えると「そのためには、このような動画がこの状態で必要」といった具体的な提案を頂きました。それを私が用意してデザイン室と一緒に編集するという流れでしたので、難しく感じる事はありませんでした。メールでの相談等も丁寧に対応して下さいだったので大変助かりました。

Moodle 活用で時間短縮を実現

前学期の授業でも、Moodle の三つの機能を活用しています。一つ目は、「課題提出」です。Moodle 上で課題提出を行うようになり、提出された課題の管理が非常に楽になりました。場所や時間を選ばず提出課題を確認し、それに対して評価やコメントを返すことができ非常に助かっています。また、課題提出の締め切りも機械的に設定できるため、学生から「提出しに行ったが教

員が不在だったので、提出が遅れた」等の意見もなくなり、お互いにストレスのない課題提出ができるようになりました。

二つ目は、「配布資料の提供」です。80 名弱の授業を複数受け持っており、「課題提出」同様、時間のかかる大変な作業でしたが、Moodle を活用してから時間短縮を実現できました。

そして三つ目は、「学生へのフィードバック」です。出席カードに書かれた学生からの感想・意見に対する返答を Moodle 上で行っていきます。これまでは、授業中に返答をしていたのですが、その時間を省くことができ、授業時間に余裕が生まれました。



学生の声

◆Moodle で課題を提出後すぐに得点が返ってくるので、例えば得点が低かった場合「なぜ低かったのか」など、授業時間外に再度課題について考える時間を持てるようになりました。(3 回生・女子学生)◆出席カードに書いた授業への感想や意見に対し、先生からの返答が Moodle にアップされます。それを通じて、授業の振り返りはもちろん、他の受講生の意見を知ることでもでき、自身の考えも深まります。(3 回生・男子学生)